

富岡地域づくり協議会だより



第14号
平成30年4月10日
広報委員会
<http://www.town-tomioka.click/>

富岡地区ウォークラリーが開催されました

平成30年3月10日(土) 8時30分より富岡まちづくりセンターを起点・終点に富岡地区ウォークラリーが開催されました。例年にならい、富岡地域づくり協議会の事業として、富岡地区ウォークラリー実行委員会が実施しているものです。

これに先だち、3月7日(水)に地域環境部会を主体に30名程の参加をいただいて、コースのごみ拾いが行われました。とりわけ、健脚コースの砂川堀沿いを中心にきれいにさせていただきました。予想以上にごみがあったようです。お陰で当日は気分良く歩くことができました。ありがとうございました。(清掃の様子は協議会だより13号に掲載しております)

本年度から改変になったことのもうひとつのことです。協賛いただける企業・団体を募集していたところ15以上もお申し出いただきました。具体的には、提供いただいた物品等を抽選会の景品として利用させていただきました。有効に活用させていただきましたことをここにご報告申し上げ、御礼に代えさせていただきます。

さて、当のウォークラリーの件ですが、数日前から天気予報ではあまりよくない報道で、心配しきりでした。

何とか前日午後の準備の時間帯は、雨はあがってくれてはいたものの、その晩には結局降ってしまっという状況でした。

当日の朝はくもっていて肌寒いほどの天気でした。当日申し込みの参加者よりも当日の棄権者の方が多いのではとの心配もありました。結果として300名ほどの参加者が会場におこしいただきました。

開会式のあと、藤本市長をはじめ、ご来賓の方々、そしてトコロンの見送りを受けて健脚コースからスタートしました。リュック等に付けていただいたゼッケンに色分けがあり、それがある程度の集団で歩く様子は、勇壮なものがあります。

スタートしてからゴールするまで一歩一歩前進あるのみですが、大変だと思って歩くのと、楽しみながら歩くのとでは、体の変化に大きな違いがあるそうです。歩き仲間と会話を楽しみながらの歩行が推奨されています。来年度は是非仲間と共に参加ください。

ところで、今年は桜の開花が早かったようですが、コース途中にみられる梅や桃、ライラック等の花やスイセンやチューリップ



【砂川堀の清掃の様子】



等の草花が、その歩みを後押ししてくれたのではないのでしょうか。

歩き終わっての、豚汁やお汁粉、そして、抽選会も堪能いただけたものと思います。

開会式・出発前の様子



参加者の様子



歩き終えてホット一息。



<編集後記>

夏草や兵どもが夢のあと
閑さや岩にしみ入る蝉の声
荒海や佐渡に横たう天の川

松尾芭蕉の『奥の細道』にある有名な俳句です。

ところで、徳川家康が幕府を開くために江戸に入った頃、江戸の町は井戸を掘っても真水が出る所は少なく、塩水が出る所が多かったそうです。そのため家康は神田上水という水道をひきました。

神田川の関口台町に堰をつくり、水位を高くして、今の東京ドームの方に水をひいて神田上水ができたのです。このときの堰をつくった工事の責任者が松尾芭蕉だったのです。

芭蕉は単なる文人ではなく、科学的な知識ももっていた人だったといえそうです。

ところが、芭蕉はスパイだった、あるいは、忍者だったという説もあります。『奥の細道』にちなんだ説のようですが、果たしてその真相は・・・。